



手稲山山頂で、仲間と400回登頂を祝った

## 手稲山に400回の登頂を果たした

### 伊野 昌司さん

いの・まさし  
北進町在住。  
50歳から登山を始める。道内外の山に登り続け、67歳でキリマンジャロ（標高5895m）の登頂に成功。市内の登山グループ「北広島ナマステクラブ」の会員でもある。



#### 記念すべき日

6月29日、晴天の下、手稲山に北広島市の登山グループが登頂した。メンバー内最年長で85歳の伊野さんにとって、この日は特別だった。34年前から登り続けている手稲山に記念すべき400回目の登頂を成し遂げた。

「おめでとう」。仲間たちから祝福の声が上がった。

#### 山に魅せられて

伊野さんが山登りを始めたのは道庁職員だった50歳のころ。職場の仲間と一緒に日高山系のアポイ岳に登ったことがきっかけだった。山頂からの景色や高山植物の美しさに感動し、すっかり山のとりこに。「一緒に登山をして、普段あまり会話がなかった年下の同僚とも打ち解けられました。本当に楽しかったですね」と懐かしむ。以来、道内外の山

# 目標に向かって 挑戦を続けたい

に登るようになった。

#### 継続することが大事

どうして手稲山に登り続けたのか。それは小学生のころに手稲山口で暮らし、近くにもいつも見える手稲山が自分にとってふるさと山だったから。登山を始めて10年ほどたった時に知り合った70歳くらいの男性が、手稲山の100回登頂を目指していると聞いた。自分も何かに挑戦しようと思い、手稲山登頂の記録を100回、200回と伸ばした。自分の限界を試そうと海外の山にも登り始めた。67歳でついにアフリカ大陸最高峰のキリマンジャロ登頂に成功した。「急いで登ると苦しくなるので、日数をかけて登りました。現地のガイドに付いてもらい、安全に気を配りながら無事成功することができました」。無理をしないことが大事だと語る。

北広島の登山道整備にも携わった。大雪山国立公園パークボランティアとして自然の紹介や動植物保護、登山道整備などの活動をした時期もあった。

これまでの体験や、山の風景を俳句にしたためる俳人の一面も持つ。山の情報誌に作品が掲載され、賞も受賞した。作品の一つ「鳴き兔<sup>ウサギ</sup> 岩に秋めく 日差しかな」。山を愛する思いが感じられる。

#### 仲間に助けられ

伊野さんに試練が訪れたのは16年前。妻が病に倒れ介護が必要になった。日数のかかる登山旅行はやめて看病に努めた。家族みんなで献身的に介護をしたが、妻は4年前に亡くなった。半年ほどは気が抜けてしまい登山どころではなかった。そんな伊野さんを励まし再び山に誘ってくれたのはサークルの仲間たちだっ

た。少しずつ元気を取り戻したが、2年前に今度は自身が脳梗塞を患った。しかし病を乗り越え、また山に登るようになった。後遺症のため視野が狭くなったが、「そこに大きな穴があるよ」「岩が転がっているから気を付けて」と仲間たちが声を掛けてくれる。「おかげで、気兼ねなく登れます。本当にありがたいです」と笑顔を見せた。

#### 北広島市の自然の中で

36年前から北広島に住んでいる。冬季は庭に餌場を作ると、アカゲラやヒヨドリなどの野鳥やエゾリスが集まってくる。「野生動物と触れ合えるのも、北広島に自然が多いからですね」。これからの目標は米寿まで山に登ること。挑戦を続けることが元気の源だそう。次はどんな快挙で驚かせてくれるのか楽しみだ。

